

036

## 楽しく学べる防災訓練プログラム 「イザ！カエルキャラバン！」の実施

取組主体

特定非営利活動法人プラス・アーツ

従業員数

想定災害

実施地域

13人

全般

兵庫県 他

・楽しみながら学ぶ防災訓練プログラム「イザ！カエルキャラバン！」を実施、阪神・淡路大震災の経験から得た防災の教訓を伝えるとともに、多くの人たちを巻き込むことで地域コミュニティの強化を図っている。

### 1 取組の概要

#### 「イザ！カエルキャラバン！」の実施

- ・2005年より国内外の様々な地域を対象に、特定非営利活動法人プラス・アーツと美術家の藤浩志氏が共同で開発した新しいカタチの防災訓練プログラムである「イザ！カエルキャラバン！」を実施し、阪神・淡路大震災の被災者から教わった、防災の教訓や知恵を次の世代に伝えている。
- ・同法人が開発した防災プログラムを元に、開催地域の特性やニーズを盛り込みアレンジを加えることで、地域ごとにプログラムをローカライズしながら、持続可能なかたちで展開している。



「イザ！カエルキャラバン！」の実施風景

### 2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

#### 集客可能な防災訓練の開発

- ・藤浩志氏が発案したおもちゃの物々交換プログラム「かえっこパズル」のシステムと、ゲーム感覚で楽しみながら消火・救出・救護などの防災知識や技を学ぶ「防災体験プログラム」を組み合わせることで、集客可能な防災訓練を開発した。結果、これまで防災訓練に参加しなかった若いファミリーが、積極的に参加する姿が見られた。

#### 地域に合わせた実施方法の選択

- ・画一的に取組を進めるのではなく、それぞれの地域に合わせて、ローカライズして実施する手法を取っている。そのため、地域の人たちに自分たちのイベントであると感じてもらいやすく、地域にとっての防災のお祭りとして根付き、継続的に開催されていくケースが多い。



防災体験プログラム

#### 実施範囲の広さ

- ・国内は全36都道府県で地域団体、行政、企業など、様々なステークホルダーと協働し、防災教育普及活動を実施。
- ・海外は全22か国でいずれも現地の政府機関、大学機関やNGOなどと連携し、同活動を実施。

### 3 取組の効果

- ・小学生を対象に、効果検証的なテストを継続的に実施し、知識の定着率を分析した。調査の結果、一般的な防災訓練よりも知識の定着率が高く、子ども向けの防災教育の場として、有効性が実証された。
- ・2022年度の開催数は18件と、開催数が少なく、コロナ前の勢いはまだ戻ってきていない。一方で、本取組に魅力を感じて導入した様々な地域の方たちにより、2020年1月に、「TEAMカエルキャラバン」が設立された。こちらのコミュニティでは、「コロナ下でのカエルキャラバン活動シェアミーティング」などが行われており、2022年のプログラム回数は2022年で累計605回となっている。各地域の人が活動に主催者として参加することで、同法人

## 国土強靱化

のメンバーがいなくとも、取組が波及していくことが一番の効果だと思っている。

### 4 取組への想い

- ・神戸で活動を始めたが、震災で大きな痛手を負ったまちでさえも、震災から10年経つと、防災への関心が限りなく低い状況であった。伝えるべき教訓があっても、人が集まらなければ意味がないと考え、人に参加してもらうことを重視し、プログラムを開発した。結果、多くの若いファミリーが参加するプログラムが完成したものの、活動初期には、防災を楽しく演出することに対して批判的な声が上がった。
- ・批判は受けたが、防災は一部の限られた人だけのものではなく、広く多くの人に関わるべきもので、多くの人を巻き込むためには、楽しいという要素が不可欠である。このような想いのもと、実績を積み重ねてきた。現在は防災を楽しく学ぶことが広く市民権を得てきたため、「正しいことより楽しいことのほうが、伝わるのかもしれない」「訓練よりも遊びのほうがみんなの夢中をつくり出せるかもしれない」というスローガンを改めて掲げ、活動を推進している。



消火器を使った体験ゲーム

### 5 防災・減災以外の効果

- ・防災のお祭りとして、カエルキャラバンという場があることで、地域の様々な団体がコミットし、多様な人同士のつながりが生まれ、つながりがより強固になったりした。

### 6 現状の課題・今後の展開等

- ・本取組は全国的に広がってきてはいるものの、必要とされるすべての地域をカバーできていない。
- ・活動をより推進していきたい気持ちはあるが、限られたマンパワーの中でどのように認知を広げるか、また、私たちの元に届いた依頼をどのような体制でこなしていくか、ということが長年課題になっている。
- ・今後の展開としては、防災の担い手育成事業や、開催団体同士のネットワークづくりなどに取り組んでいる。
- ・カエルキャラバンを見本として、全国に魅力的な防災活動が広がり、防災がより身近で日常的な存在になるよう、今後も尽力したい。

### 7 周囲の声

- ・「災害について初めて知ることばかりだったし、自分の周りにたくさん役立つものがあることが分かった」（参加者）
- ・「カエルキャラバンを実施することで、多世代に関わる貴重な場になっていると感じる。」（地域におけるカエルキャラバン企画・実施団体）

#### 担当者の声

- ・我々は、より多くの人に関われるよう、「楽しい防災」を実現するための事業推進やイベント開催、コンテンツ開発などに日々奮闘している。防災に関係ない人はいない。「イザ！カエルキャラバン！」に興味を持ち、さらに防災への備えの一步を踏み出すきっかけにしてほしい。

#### 問合せ先

特定非営利活動法人プラス・アーツ 法人番号：4120005010904  
電話番号：078-335-1335 FAX：078-335-1339  
E-Mail：info@plus-arts.net URL：http://plus-arts.net/

#### 動画

—

#### サイト URL

